

執筆者紹介(掲載順)

- 橋爪 節也 大阪大学文学部・文学研究科教授
 小川 知子 大阪新美術館建設準備室研究副主幹
 石上 敏 本学経済学部教授
 明尾 圭造 本学総合経営学部准教授・本館主席学芸員
 末永 國紀 同志社大学名誉教授・(財)近江商人郷土館館長
 武知 京三 近畿大学名誉教授
 井田 泰人 近畿大学短期大学部教授
 須賀 博樹 青山学院大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
 塩田 眞典 本学経済学部教授
 谷内 正往 本学総合経営学部准教授
 坂口 正彦 本学経済学部講師
 小田 忠 株式会社テイジーテック代表取締役
 池田 治司 本館学芸員
 (運営委員(五十音順))
 明尾 圭造 本学総合経営学部准教授・本館主席学芸員
 伊木 稔 本学総合経営学部教授・本館館長
 石上 敏 本学経済学部教授・本館副館長
 石黒 亜維 本学総合経営学部講師
 坂口 正彦 本学経済学部講師
 谷内 正往 本学総合経営学部准教授
 林 妙音 本学総合経営学部准教授
 西川 直亮 本学事務局長

編集後記

四年続いた大阪画壇関係の展覧は少しお休みして、今年は『江戸廻米―庄屋勘左衛門、コメを納めに江戸へ参上!』として、河内国幕府領年貢の江戸廻米を取り上げます。展覧は10月20日～11月30日。企画した本館学芸員池田に展示企画で苦心した点を聞いてみました。

「江戸時代の納税のあり方は、現在とはまるで違います。まず、中央集権的な近代国家とは違って、各藩の支配の仕方でも年貢米上納の方法も、領主・領地によって様々でした。徳川幕府は全国に多数いる領主の中の最大の領主であり、その領地は全国に散らばっていたため地方ごとに代官をおいて支配を行い、遠隔地からは江戸への年貢米上納が必要でした。

もう一つは、租税の考え方の違いです。明治六年から施行された地租改正によって、租税米納は廃止され、金納に統一されました。この時全国的に地券が公布され、初めて私有地が認められます。当時は土地に対する租税『地租』がなく、江戸時代はそれを年貢米で納めるのが原則でした。これは貨幣経済が発達した江戸時代とはいえ、最も利用価値の高い経済財としてコメが認識されていた証です。多大な労力や費用を厭わず遠距離の廻米を行ったのもそのためです。」

年貢を納める旅には、遭難や盗みもありましたが、楽しみもありました。そういう部分も含め御覧いただければ幸いです。ぜひご来館ください。(岡村良子)

大阪商業大学商業史博物館紀要 第十七号

平成二八年十月二〇日

編集・発行 大阪商業大学商業史博物館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町四―一―一〇

☎〇六(六七八五)六一三九

印刷・製本 株式会社ライジングサン

〒599-8234 堺市中区土塔町七九―四

☎〇七二(三三三〇)七五〇三